

|                |            |
|----------------|------------|
| TOKONAME       | No. 261    |
| 看護だより<br>NURSE | 平成20年11月7日 |

ましてしまいがちですが悲嘆する過程を取ってしまうと立ち直ることもできないため、一緒にがっかりしてあげることが必要だそうです。これだけでは、皆さんに伝えられないことも多いため、今後学んできたことを実践し伝えていきたいと思えます。

秋ですね。味覚の秋。食欲モリモリ。体重アップに注意です。

秋の夜長。どんな本から夢の世界へ向かいますか？

音楽の秋。素敵なメロディー歌う？奏でる？聴いてみる？

運動の秋。北京に負けるな！筋肉痛に負けるな！！

さあ・・・あなたは何の秋？

じっくり感じてみましょうね。

## 研修報告

### 「ホスピタルクラウン」の活動から

平成20年9月26日 外来 新海和

子

NPO 法人、日本ホスピタル協会理事長大棟耕介氏による講義は定員 100 人のところ 220 人の申し込みがあり「癒し」に対するニーズの高さを伺い知る事ができた。クラウンとは田舎者、道化と言う意味である。ホスピタルクラウンとしての活動内容やクラウンの魅力、クラウン流コミュニケーションのとり方、笑いをビジネスに変えるための工夫等についての内容であった。熱意と情熱に満ちたエネルギーな講義内容は、眼からウロコが落ちる思いであった。職場の中の対人関係や家庭の中がうまくいっている事こそが大切である。自分の立つ位置がしっかりしていることで、思いや笑いは周りの人に伝播する。ナース自身が癒されていなくては笑顔になれない。ナースの笑い声は病室の空気を変える力を持っている。人々に癒しから生きる力を引き出すクラウンの技術を学ぶ機会を与えていただいた事に感謝します。

### 「平成 20 年度院内教育担当者研修」

平成20年9月24～25日 腎センター 鈴木

智恵

今回現任教育担当者の研修に参加した。院内教育についての講義を聞き、グループ内で院内教育の問題、解決するための方法について討議した。各施設様々な問題を抱えていることがわかり、私が抱えている問題と同じ部分も沢山あり、グループワークはとても有意義でした。この研修に参加したことで、研修をプログラムするためには、一つ一つ段階をおって考え計画することで、学習者・計画者双方に実りのある研修になることがわかった。今後の現任教育を行っていく時に、今回学んだ人を育てる時は、良い所を見る。出来た所をほめてそこから指導出発。人が成長するには時間がかかる。このことをふまえて学習者に研修の楽しさを知ってもらい、良かったと一人でも多くの人に言ってもらえるような研修ができるようにしたい。

### 「患者理解とコミュニケーションスキル」

平成20年9月17日 西4階 小原

奈美

コミュニケーションでもっとも重要なのは傾聴することで、傾聴無く共感はできない。患者様が不安や恐怖を訴えてきた場合は訴えをオウム返ししてあげること、傾聴していることを確認し安心するのだそうです。日々忙しい業務の中で皆さんは出来ていますか？Drからの告知後のサポートとしては、一緒にがっかりしてあげることが重要です。はげましても患者様は、受け止めてもらえないんだと思ってしまうそうです。日本人は、この悲嘆反応（グリーフリアクション）に慣れていないため、すぐに励